

# Buddha Symphonie

## 交響管曲

貴志康一 生誕一二〇年

芦屋から世界へ



# 仏陀

指揮 木許 裕介

演奏 芦屋交響楽団

講演 根岸 一美

学校法人甲南学園  
貴志康一記念室

貴志康一がヨーロッパに伝えたかった日本



木許裕介

2018年 BMW 国際指揮コンクール(ボルトガル) 優勝

演奏会

2019 9/14 (土)

3:00PM 開演 (2:15PM 開場)

芦屋市民センター  
(ルナ・ホール)

JR 芦屋駅、阪急芦屋川駅より徒歩約7分、阪神芦屋駅より徒歩約8分

チケット料金 全席指定 2,000円 (当日 2,500円)

チケット取扱い 芦屋市民センター事務所 (9:00AM~5:30PM (日・祝は 5:00PM まで)、火曜休)  
芦屋市役所売店 (9:30AM~4:30PM 平日のみ)・ローソンチケット (Lコード 54548)

お問い合わせ: ルナ・ホール事業担当 電話 0797-35-0700

主催: 芦屋市・芦屋市教育委員会

協賛: 学校法人甲南学園

5月15日(水)  
9:00AM 発売開始

# 芦屋ゆかりの夭折の音楽家、貴志康一(1909-1937)の交響曲『仏陀』。 東西の美学を架橋し、1934年、自らベルリン・フィルを指揮、初演した代表作。



指揮者、作曲家、ヴァイオリニストとして、日本とヨーロッパで華々しく活躍しながらも28歳で惜しまれながら世を去った芦屋出身の音楽家、貴志康一。

生誕110年を記念し、弱冠25歳の時にベルリン・フィルを指揮し初演した交響曲『仏陀』を、芦屋、ルナ・ホールにて上演します。東洋と西洋の美学の架橋という貴志康一の理念が音楽に具現化された代表作です。

指揮者には、昨年ポルトガルで開催された国際指揮コンクールで優勝に輝いた気鋭の若手、木許裕介氏をむかえ、芦屋で設立50余年の歴史のオーケストラ、芦屋交響楽団が演奏します。

第二部では、音楽学者の根岸一美氏と、学校法人甲南学園 貴志康一記念室の講演により、貴志康一の全体像に迫ります。

プログラム	14:50	指揮者によるプレトーク	木許裕介
	15:00	開演 第一部	貴志康一作曲 交響曲『仏陀』(1934) 演奏会 <休憩>
	16:15	第二部 講演	1. 学校法人甲南学園 貴志康一記念室 から 2. 「貴志康一の遺したもの」 根岸一美

## 【指揮・プレトーク】木許 裕介 / Yusuke Kimoto

1987年生まれ。大阪府高槻市出身。指揮を故村方千之氏に師事。2018年、ポルトガルで開催されたBMW国際指揮コンクールにて第1位優勝。同コンクールでの日本人の優勝は初となる。同年、出身の大阪府高槻市より「特別功労賞」を受賞。現在、日本ヴァイラ=ロボス協会会長、Amasia International Philharmonic 芸術監督、ペガジュニアアンサンブル常任指揮者などを務める。

20代では東南アジアでの演奏活動に尽力し、Worldship Orchestra 正指揮者としてフィリピンとカンボジアで30公演以上を指揮。2016年よりイタリアで研鑽を積み、芸術監督アシスタントとしてボローニャフィルハーモニー管弦楽団 2017,18,19年ニューイヤーコンサート、日伊国際共同制作野外オペラ「道化師」(姫路城)「トゥーランドット」(平城宮)などに携わる。国内においては九州大学芸術工学部フィルハーモニー管弦楽団、神奈川セリエスオーケストラ、福井大学フィルハーモニー管弦楽団など日本各地の大学オーケストラで指揮者を務める。福井大学フィル第66回定期演奏会では、貴志康一「ヴァイオリン協奏曲」全楽章ノーカット版を演奏して多大な反響を生んだ。慶應義塾大学SFC研究所上席所員、東京大学教養学部「学藝饗宴」ゼミナール芸術監督、一般財団法人欧州日本芸術財団プリンシパル・ディレクター、代官山未来音楽塾副塾頭など、大学や企業での文化芸術事業においても独自の活動を展開。東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻修了、修士(学術)。



## 【講演】根岸 一美 / Kazumi Negishi

音楽学者。大阪大学名誉教授。1946年埼玉県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退(美学芸術学専攻)。大阪音楽大学専任講師、大阪教育大学助教授、同教授、大阪大学大学院文学研究科教授、同志社大学文学部任期付教授を歴任。1982~84年、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究員としてドイツ(ハイデルベルク大学)に留学。著書に『ブルックナー／マーラー事典』(共著・東京書籍)、『音楽学を学ぶ人のために』(共著・世界思想社)、『大作曲家〇人と作品 ブルックナー』(音楽之友社)、『ヨーゼフ・ラスカと宝塚交響楽団』(大阪大学出版会)、訳書に『音楽家400人の肖像画③18世紀』(音楽之友社)、『グンター・ヴァント』(音楽之友社)など。2004年、ヨーゼフ・ラスカのバレエ・パントマイム《父の愛》舞台世界初演の企画・監修。2008年、貴志康一のオペレッタ《なみ子》世界初演(演奏会形式)のドイツ語台本翻訳を担当。



## 学校法人甲南学園 貴志康一記念室 / KONAN GAKUEN Koichi Kishi Memorial Room

母親と妹たちによって大切に守られていた貴志康一の遺品が、1976年に母校である甲南学園へ寄贈されたことをきっかけとして開設された。貴志康一の作品が多くの方々に演奏され親しまれること、また学生・生徒への教育に寄与することを願って様々な活動を続けている。所蔵する資料は自筆楽譜、写真や書簡、活躍当時の新聞・雑誌記事、ベルリンで出版された楽譜やレコード、出演コンサートのプログラムのほか、身の回りの雑貨や衣類まで多岐にわたっており、定期的に訪れる演奏家や研究者も少なくない。また、近年は特に楽譜の浄書に力を入れて取り組んでおり、オーケストラ作品「仏陀」「日本スケッチ」「日本組曲」「日本歌曲集」の各スタディ版スコアのほか、人気の高い「ヴァイオリン組曲」などを相次いで出版している。

1996年第20回植村文化賞<文化芸術部門>受賞。

## 【演奏】芦屋交響楽団 / Ashiya Symphony Orchestra

1967年発足。故松島正之助名誉団長の尽力、1977年音楽監督として招聘した故芥川也寸志氏により礎が築かれる。トレーナーとしてこれまで故稲庭達氏、佐藤一紀氏、中根庸介氏、待永望氏、呉信一氏を、また指揮者には近年、湯浅卓雄氏、松尾葉子氏、黒岩英臣氏、山下一史氏らを迎えている。芦屋市民センターを拠点に音楽活動を続けており、年2回の定期公演のほか、地元芦屋での演奏活動を行っている。1993年ヨーロッパ演奏旅行、2006年ベトナム国立交響楽団との合同演奏会を含む演奏旅行、2007年には創立40周年記念演奏会として東京公演、創立50周年を迎えた2017年には記念演奏会として東北公演(宮城県石巻市、柴田郡大河原町)を実施し好評を博した。音楽作品への意欲的な取り組みや地元での地道な活動が評価され、これまで、1986年芦屋市民文化賞、1997年アマチュア団体初の兵庫県芸術奨励賞を受賞のほか、2010年芦屋市市政功労者として表彰される。現在団員数約110名。

### 関連イベント

#### I. 展覧会

##### 「貴志康一とその時代」

9月7日(土)～9月23日(月、祝)

【会場】芦屋市民センター別館

展示ギャラリー

#### II. 貴志康一監督 映画作品上映会

『鏡』(1933)、『春』(1933)

(国立映画アーカイブ所蔵)

9月7日(土) 午前10時30分

(開場午前10時)

【会場】芦屋市民センター本館

4F 401室

入場無料、先着100名

